

課題と総括

県内選出2氏に聞く

藤井裕久・党最高顧問

「国の姿」の政策譲るな

民主党が結党から10年を迎えたことを受け、小沢代表の側近でもある藤井裕久・党最高顧問(衆院比例南関東)と、草創期から党を支える千葉景子・総務委員長(参院神奈川選挙区)の県内選出2氏に、これまでの総括や政権交代に向けた課題などを聞いた。

—— これまでの歩みをどう見ているか

「民由合併のころ世間から、地元には根づいていないと、よく言われた。だが、ここ数回の国政選挙で、小選挙区候補が獲得した票数が比例票を上回っている。態勢は変わってきた。党内がバラバラとの批判もあるが、選挙で受けた有権者からの期待を謙虚に受け止めることが第一。いろいろ言うのはいいが、最後にまとまるのが大事だ。『水と油』の人たちがまとまった自民党の歴史を参考にすべきだ」

—— この間の成果は

「官僚に頼る自民党とは違い、政策能力がある。昨夏の参院選の結果、民主党提出の法案が通るようになった。C型肝炎問題、政治資金規正法など、目に見えて成果が出ている」

—— 政権交代の道筋は

「反対だけではダメだ。国民生活に直結する政策などは妥協すればいい。ただ、残り2割の『国の姿』に関する政策については絶対譲ってはいけない。テロ対策特別措置法も、国の資源の再配分の問題である暫定税率も、まさにそれに当たる。そして最後に決めるのが選挙であり、有権者だ。民主党はこの姿勢を貫くことが重要だ」

—— 前回衆院選で県内選挙区は全敗だった。政権交代はできるのか

「議員の日常活動は政策とともに車の両輪だ。まだ人によりけりの部分もあるが、地に足を着けた活動ができるようになってきた。このため観念的ではない、具体的な政策展開もできるようになっている。政権交代は十分可能だ」

—— 小沢代表の評価は

「いろいろ言う人はいるが、百点の人はこの世界にもいない。はっきり言えるのは、外交で日本の立場を堂々と主張できる唯一の政治家だ」